

個別研修（村島 千文）

デンマーク・オーデンセ市：施設名 レミーダアートスクールオーデンセ

授業の一つとして小学 5 年生がレミーダセンターを訪れていた。作る過程で環境について考える。構造的な物の成り立ちに気づく。ファンタジーや物語を重ねて思考力や想像力を養うことができる。など、子どもの手を介して廃材が創造的なアート作品へ変化するプロセスには様々な教育的なねらいが織り込まれている。

キャンバスにアクリル絵の具で描くことも自由に。子どもの発想を大切にしている。



プラスチック廃材はランプ会社から提供を受ける。透明感を利用してイメージを広げる。



企業は廃材を積極的に提供しアートとコミュニティを繋ぐ役割を果たしている。



プラスチック・ゴム・厚紙・金属の層・布・皮・大小問わず提供され子どもの想像力を高める。



画材は大人が使うものと同じ素材を用意し子どもの表現を最大限に引き出していく。



Box と廃材から得たインスピレーションで物語を作る。作りながら空間の認知や表現力も養う。



個別研修（村島 千文）

施設名：レミーダアートスクールオーデンセ・小学生の授業より

リサイクルとして提供された廃材は様々な素材の物が集まる。形状・素材の質・色・量は子どもの想像力が引き出され探究心が揺さぶられる。作る過程を通して子どもたちは学習への意欲が高まり、自主的な学びへと導かれてゆく。

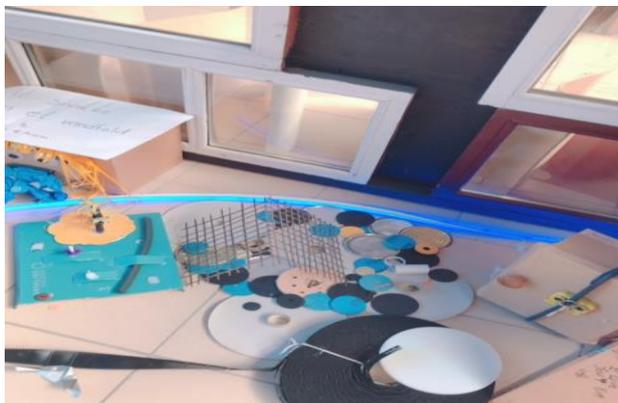
好きな場所で作業が始まる。2人組になってストーリーを作り形に変えてゆく。



以前訪れた生徒の作品。1年に1度大きな展示会があり作った作品の多くが並び。



廃材はデザイン化され生徒のクリエイティブな活動の証として生まれ変わる。



全て子どもの手によって作られる。先生はコミュニケーションを取りながらサポートする。



素材を友達と相談して決めることもあれば思い付きに任せて作り始めることもある。



アートを管理されて子どもの想像力をサポートするカーリンさんとコーウさん

